

# 生産者と実需者・流通業者

## コメ特化の商談会 開催



農業生産法人などが個別に具体的な商談を進めた

拡大する業務用需要に適合できるコメ生産・流通に向けたプロジェクトを実施している(二社)日本食糧連の二環として4日、都内で「プロジェクト推進委員会」が開かれた。全国各産地の生産者グループや農業生産法人、単位農協など47者が参加し、中食・外食・炊飯事業者のほかコメ卸・小売業者と個別に商談。展示ブースでは試食も提供しながら情報交換を行い、販路開拓に努めた。

展示商談会は、農水省の補助事業「業務用米生の販路拡大」に向けた「理・流通拡大」に向けたプロジェクトを実施している(二社)日本食糧連が主催。食と農業専門のコンサルティング業務を行う御コネクト・アクリフーズ・ラインズ(東京)が運営を担当した。1月に全国4会場で開催した「コメの契約生産による安定取引と中食・外食に向けた販路拡大セミナー」に続く企画で、生産と実需・流通のマッチングが狙いだ。

午前と午後に分けて開かれた商談会は合計17時間、産地側の出展者ごと企業側の最大も事業者と個別の商談が集められた。コメに特化した商談の場だったため、出展者側からは「具体的に有効なアピールができた」と相手の反応が明確で効果的な情報交換になったり、次々契約できたことも、次につなげる取引のきっかけができた――と好評を博していた。

成功率の向上を促すため双方のニーズを考慮した商談プログラムに基づいて事前マッチング方式が採用された点も評価され、継続実施を望む声が多かった。また別会場の展示台では、それぞれのブースでオープンに米米の特性に関する情報を発信、試食を通して食味をアピールする姿も目立った。



展示ブースでも情報発信

今回は、昼食時を利用して「品種食比べ」を企画。試食対象は業務用向けに選んだ次の10品種(カッコ内は提供機関)で、会場では担当者から主な特徴や収益性、適した用途などが説明された。(1)北海1333号(北海道農業研究センター) (2)ゆきさやか(同) (3)ちほみのり(東北農業研究センター) (4)ゆめおぼこ(秋田県農業試験場) (5)あきたわら(農研機構作物研究所) (6)風さやか(長野県庁) (7)あまみの絆(中央農業総合研究センター) (8)陸奥研究センター) (9)あすすほの輝き(同) (10)あまの予感(近畿中国四国農業研究センター) (11)にこまる(九州沖縄農業研究センター)。